

第2回佐賀県輸血懇話会

1. 日時：平成28年2月13日（土）14：30～17：30

2. 会場：佐賀勤労者総合福祉センター（メートプラザ） 多目的ホール
佐賀市兵庫北3丁目8番40号 TEL：0952-33-0003



3. 内容：

講演 1. 「今さら聞けない！輸血バッグ・輸血セットの取り扱い」 14：40～15：10
佐賀県赤十字血液センター 井川 福康

医療機関から問い合わせられた内容を中心に輸血バッグや輸血セットの適正かつ安全で取り扱いについて Q&A 形式で説明します。

講演 2. 「認定看護師としての当院での活動と今後の課題」 15：10～15：40
福岡大学病院 看護部 甲斐 純美 先生

院内の輸血関連インシデント報告に対し、輸血部は当事者・部署・診療科へ安全対策を講じ、輸血療法委員会や院内輸血部通信で情報提供と対策を図っている。しかし、臨床の多様な状況では、手順を厳守した実践が困難なケースがあり、医師・看護師への周知徹底の難しさを感じていた。平成25年度より学会認定看護師が新人教育を担当、インシデント発生部署・輸血に関する臨床からの相談に対し、部署へ訪問・介入することで改善へ繋がったケースがあり、活動内容について報告する。

講演 3. 「不規則抗体の重要性について～看護師に必要な不規則抗体の知識～」 16：00～16：40
日本赤十字社 血液事業本部 学術情報課 西岡 純子

医療機関で実施される輸血検査には、ABO血液型検査、RhD血液型検査、不規則抗体スクリーニング、不規則抗体同定などが挙げられる。溶血性輸血副作用防止のために輸血前のABO血液型とRhD血液型の検査は必須であるが、不規則抗体検査もまた重要な検査である。当日は、不規則抗体が産生される原因や臨床的意義、不規則抗体検査の重要性、ベッドサイドでの預血の早期発見のポイント、不規則抗体が検出された患者の輸血への対応について説明する予定である。

講演 4. 「聞かなきゃ損！輸血副作用の最新情報」 16：40～17：30
東京都赤十字血液センター 副所長 松崎 浩史

血液センターには毎年約1,500件の輸血副作用が報告され、その約半数が非溶血性副作用で血小板製剤での発生率が最も多い。輸血感染症はHBV感染既往者からの献血を中止し、個別NATを導入したことで減少した。現在は、血小板製剤の細菌汚染が愁眉の的でベッドサイドでの外観検査が重要性である。輸血関連循環負荷(TACO)は増加傾向、輸血関連急性肺障害(TRALI)は減少傾向にある。両者の診断、鑑別、予防の注意点について概説する。

○当日の会費は無料です。

○本会は、(財)日本薬剤師研修センター研修認定講座、日医生涯教育制度認定講座、日本臨床衛生検査技師会認定講座、日本輸血・細胞治療学会認定講座となっています。証明書の発行を希望される方は、当日受付にてお申し込みください。

【主催】 佐賀県赤十字血液センター

【共催】 佐賀県病院薬剤師会

【後援】 佐賀県医師会、佐賀県臨床検査技師会、日本輸血細胞治療学会九州支部会



問い合わせ先

佐賀県赤十字血液センター 学術・品質情報課

TEL: 0952-32-1011 FAX: 0952-97-8392